

## 平成 17 年度 第 1 回コンクリート委員会・第 3 回常任委員会 議事録

日 時：平成 17 年 9 月 6 日（火）15:00～18:00

場 所：土木学会講堂（2 階）

出席者：角田，小柳，田澤，長瀧，町田，三浦の各顧問

丸山委員長，牛島，内田，遠藤（代理：石川），大浦，大塚，岸，阪田，庄谷，鈴木（一），  
近田，鳥居，名和，大和（代理：添田）の各コンクリート委員会委員

石橋，上田，魚本，岡澤，金津，河野，坂井，佐藤（勉），佐藤（良）（代理：河合），鈴木（基），  
十河，手塚，富田，二羽，信田，橋本，前川，松岡，宮川，睦好，六郷，渡辺の各常任委員  
会委員

横田幹事長，下村，中村，服部，三島の各幹事，松沼事務局職員

配布資料：

- 3-0 平成 17 年度 第 1 回コンクリート委員会・第 3 回常任委員会 議事次第
- 3-1 平成 17 年度 第 2 回常任委員会 議事録（案）
- 3-2-1 土木学会コンクリート委員会・委員会活動報告
- 3-2-2 ローマコンクリート調査小委員会 委員構成（交代）
- 3-3 コンクリート標準示方書の改定方針について
- 3-4 土木学会委託研究について：コンクリートの施工性能評価小委員会 委員構成（案）
- 3-5 土木学会委託研究について：複数微細ひび割れ型繊維補強セメント複合材料指針作成小委員会 委員構成（案）
- 3-6 土木材料実験指導書編集小委員会 委員構成（案）
- 3-7 3 種委員会（耐震設計研究小委員会）の 2 期目の申請について
- 3-8 VIFCEA-JSCE ジョイントセミナーの開催について
- 3-9 垂井高架橋損傷対策特別委員会 中間報告書 抜粋
- 3-10-1 EPMA 法作業部会作成原案への意見に対する回答(案)
- 3-10-2 EPMA 法によるコンクリート中の元素の面分析方法(案)
- 3-11-1 325 コンクリートの表面被覆および表面改質技術研究小委員会 委員構成（増員）
- 3-11-2 331 材料劣化が生じたコンクリート構造物の構造性能研究小委員会 委員構成（交代）
- 3-11-3 335 構造物表面のコンクリート品質と耐久性能検証システム研究小委員会 委員構成（案）
- 3-12 平成 17 年度 コンクリート委員会 一般会計 会計状況（8/26 現在）
- 3-13 「ペーパーレス化の推進」等へのご協力依頼
- 3-14-1 コンクリート構造物の非線形解析技術と耐震設計に関する講習会 会告
- 3-14-2 アルカリ骨材反応対策小委員会報告書に関する講習会 会告
- 3-14-3 コンクリート構造物の環境側面に関する講習会 会告
- 3-15-1 第 49 回 日本学術会議材料研究連合講演会 会告
- 3-15-2 第 28 回 材料講習会 コンクリート構造物の内部変状と補修・補強技術 会告
- 3-15-3 第 5 回 コンクリート構造物の補修，補強，アップグレードシンポジウム 会告
- 3-15-4 Three-Day CANMET/ACI International Symposium on Sustainable Development of

## Cement, Concrete, and Concrete Structures の Circular

### 3-15-5 The 4th Kumamoto International Workshop on Fracture, Acoustic Emission and NDE in Concrete の Final Program & Abstracts

### 3-15-6 FRPRCS8 の Preliminary Announcement

#### 議 事：

##### 1. 委員長挨拶

丸山委員長より委員会開催にあたり挨拶が行われた。

##### 2. 前回議事録（案）の確認

資料 3-1 の平成 17 年度 第 2 回常任委員会 議事録（案）が下村幹事より説明された。4.報告事項 (4)で「今後よも」「今後とも」と修正し、了承された。

##### 3. 審議事項

###### (1) 小委員会活動報告

丸山委員長より、資料 3-2-1 を用いて、第 1 種および第 2 種委員会の活動が報告された。主な内容は以下の通り。

###### a) 第 1 種委員会

- ・ 100 コンクリート委員会・コンクリート常任委員会：平成 15 年 4 月～平成 17 年 3 月の委員長：丸山久一、幹事長：前川宏一 体制のあと、平成 17 年 4 月より 2 期目となり、委員長：丸山久一、幹事長：横田 弘 体制となった。また、多少の委員入れ替えを行った。
- ・ 101 示方書小委員会：2007 年の改定に向けて作業中。
- ・ 102 基準関連小委員会：2005 年版を刊行した。
- ・ 112 コンクリート標準示方書英訳小委員会：構造性能照査編、耐震性能照査編、維持管理編の 3 冊が出版された。施工編もまもなく出版される予定。
- ・ 113 アルカリ骨材反応対策小委員会：活動期間を終了。大阪の講習会を終え東京での講習会も予定。
- ・ 114 ローマコンクリート調査小委員会：平成 17 年度も継続。

###### b) 第 2 種委員会

- ・ 201 コンクリート教育研究小委員会：Web-JST 対応として、212 コンクリート教育教材作成小委員会へ移行。教材の内容を作成し、外注により Web に掲載する。201 は休止。
- ・ 205 土木材料実験指導書編集小委員会：高専などを対象とした指導書を作成。
- ・ 207 国際関連小委員会：メーリングリストやジョイントセミナーを実施してきた。
- ・ 208 示方書連絡調整小委員会：次に続く若い世代に担当させた。第 1 期目は終了し、報告書は技術シリーズで出版した。もう 1 期、継続する。
- ・ 211 重点研究課題「コンクリート標準示方書のアジア地域への展開戦略に関する研究」対応 PT：土木学会平成 17 年度研究委員会予算の重点配備が適用されたもので、活動期間は平成 17 年度に限定されている。ベトナムでのセミナー等を計画している。

- ・ 212 コンクリート教育教材作成小委員会：201 委員会より移行（前出）。

#### 《委託の委員会》

- ・ 288 電力施設解体コンクリート利用検討小委員会：5年間の活動期間を経て平成 17 年 3 月に終了。成果はコンクリートライブラリーNo.120 にまとめられた。
- ・ 286 表面保護工法研究小委員会：2年間の活動期間を経て平成 17 年 3 月に終了。成果はコンクリートライブラリーNo.119 にまとめられた。
- ・ 284 吹付けコンクリート研究小委員会：2年間の活動期間を経て平成 17 年 3 月に終了。成果はコンクリートライブラリーNo.121～123 の 3 冊にまとめられた。これらのコンクリートライブラリーは英訳予定。
- ・ 283 鉄筋継手指針改定小委員会：新しい継手や性能照査を踏まえて、見直しを行っている。平成 19 年 3 月に終了し、コンクリートライブラリーの出版を予定している。
- ・ 282 垂井高架橋損傷対策特別委員会：平成 17 年 9 月初旬に中間報告を行い、平成 17 年度末に最終報告を行って終了する予定。
- ・ 281 コンクリートの施工性能評価小委員会：平成 17 年 9 月発足予定。フレッシュコンクリートの施工性能評価手法の構築とコンクリート標準示方書・施工編「第 5 章 コンクリートの施工性能」改定案の資料作成を行う。
- ・ 280 複数微細ひび割れ型繊維補強セメント複合材料指針作成小委員会：平成 17 年 9 月発足予定。複数微細ひび割れ型繊維補強セメント複合材料を用いた構造物の設計・施工指針案を作成する。

以上の第 1 種，第 2 種委員会の活動報告について，了承された。

続いて横田幹事長より，資料 3-2-1 を用いて，第 3 種委員会の活動が報告された。活動報告の主な内容は以下の通り。

#### c) 第 3 種委員会

- ・ 322 コンクリート構造物の非線形解析技術研究小委員会（第 2 期）：2 期目が終了。報告書を作成し，平成 17 年 9 月に講習会を開催予定（329 耐震設計研究小委員会と合同開催）。
- ・ 324PC 構造物の現状の問題点とその対策に関する研究小委員会（第 2 期）：2 期目がまもなく終了。報告書を作成し，平成 18 年 4 月に報告会を開催予定。
- ・ 325 コンクリートの表面被覆および表面改質技術研究小委員会（第 2 期）：2 期目がまもなく終了。平成 18 年 1 月以降，報告書を作成し，シンポジウムを開催予定。
- ・ 326 弾性波法の非破壊検査研究小委員会（第 2 期）：第 1 期目における弾性波法の理論的な統合と実用技術への展開についての検討を受け，基準の提案・現場事例の拡充を目指す。
- ・ 328 コンクリート構造物のヘルスマonitoring研究小委員会（第 2 期）：平成 18 年 11 月頃，報告書を作成し，シンポジウムを開催予定。
- ・ 329 耐震設計研究小委員会：1 期目がまもなく終了。報告書を作成し，平成 17 年 9 月に講習会を開催予定（322 コンクリート構造物の非線形解析技術研究小委員会と合同開催）。
- ・ 330 豊かな沿岸を造る生態系コンクリート研究調査小委員会：磯やけの対策などを検討中。平成 18 年中に，報告書を作成し，講習会を開催予定。

- ・ 331 材料劣化が生じたコンクリート構造物中の構造性能研究小委員会：材料劣化が構造性能に与える影響などを検討中。平成 18 年 5 月頃，報告書を作成し，報告会を開催予定。
- ・ 332 コンクリート 地盤境界問題研究小委員会：土圧・水圧の取り扱いなどを検討中。平成 18 年 7 月に終了予定。
- ・ 333 混和材料を使用したコンクリートの物性変化と性能評価研究小委員会：混和材料を用いたセメント・コンクリート硬化体の共通試験などについて検討中。平成 18 年 9 月に終了予定。
- ・ 334 複数微細ひび割れ型繊維補強モルタルの評価と利用研究小委員会：既に技術シリーズを出版済み。平成 18 年夏ごろにシンポジウムを開催し終了予定。
- ・ 335 構造物表面のコンクリート品質と耐久性能検証システム研究小委員会：施工後に構造物表面のコンクリートの品質を確認する技術と，コンクリート表面の品質を踏まえて構造物の耐久性能を検証するシステムの調査・研究・整備を目的とする。平成 17 年 9 月に発足予定。

これに対し，325 コンクリートの表面被覆および表面改質技術研究小委員会の活動報告に記載の「浸透性給水防止剤には，確立された評価方法が無い」の部分については，286 表面保護工法研究小委員会で試験方法を作成したため誤りであるとの指摘があり，これを 325 委員長に伝えることとした。以上の第 3 種委員会の活動報告について，了承された。

また，資料 3-2-2 の 114 ローマコンクリート調査小委員会の委員交代が了承された。

## (2) 示方書小委員会の委員構成・活動計画

魚本委員より，資料 3-3 を用いて，コンクリート標準示方書の改定方針について説明された。主な内容は以下の通り。

- ・ 現行示方書に対し，設計計算例を作成し，講習会を開催した。
- ・ 今年度から，2 年間を目途として，示方書の改定を行う。資料 3-3 の 2 ページ以降に，委員構成(案)を示す。ダム部会については，前回の常任委員会を受けて，設置の方向で検討した。
- ・ 各編とも，「本編(性能照査) + マニュアル」の構成とし，体系としての大改定は行わない。
- ・ 設計編の冒頭で，示方書の体系全体に関する基本的な考え方並びに各編の位置付け，各編間のつながりを記述する賞を設ける。

これに対し，以下の質疑応答があった。

- ・ 上田：共通編の作成はないのか？設計編に書く必要はないのでは？
- ・ 魚本：設計編を代表として，その冒頭に組み込むこととした。実務的に使いやすくするためには，すべてが性能照査型であることは必ずしも得策ではないと考えられることから，例えば性能照査を共通編として独立させることも考えている。最終的な形は未定。
- ・ 町田：実務者に使いやすく，よく使われる示方書を目指すことと，性能照査型にすることは相反する。示方書は，実務者向けにはあまり使われるものではなく，あるべき姿が書いてあると考える。この点において，施工編は斬新になっている。性能照査にさらに向かっては？
- ・ 魚本：方向性としてはありうるが，期限の問題等もあり，今回の改訂では難しい面もある。
- ・ 町田：設計編なら可能では？設計編に何か斬新な内容はないか？
- ・ 魚本：より長期的な視野に立って 取り組んでいきたい。示方書連絡調整委員会にも期待している。
- ・ 丸山：「何か斬新」の盛込み，というような意図で，示方書連絡調整委員会を設置している。若手に議論を誘発させたい。

- ・ 田澤：町田先生に賛成．322 コンクリート構造物の非線形解析技術研究小委員会，329 耐震設計研究小委員会の成果（耐震設計など）などを盛り込むことが考えられる．

また，設計のための研究ではなく，被害を被らないような，生活における要求性能を満足するような示方書であってほしい．そういうレベルまで考える必要がある．例えば垂井高架橋に件では，技術的のみならず，社会的なことまで踏み込むべきではないか．これらは，社会的に，コンクリート委員会の責任がますます重くなる．そういう責任も取れるような取り組みであってほしい．

- ・ 長瀧：ダム編については，ダムグループとコンクリートグループの両方が満足するのがよいが，難しい面がある．これらのうち，ダムグループでは，限界状態設計法を取り入れるべく検討を重ねている．コンクリートグループでの取り組みも，それに対応できるものでなければならない．
- ・ 三浦：実務者に使いやすい使われる示方書，という言葉には，いろいろな段階がある．単純さなどにおいて．どの程度の使いやすさなのか？
- ・ 石橋：学問的にはしっかりとってきている．しかし，現場の第一線はマニュアルで動いている．セットでマニュアルを作成しようとしている．

以上を踏まえて，活動を行うこととした．

### (3) コンクリートの施工性能評価小委員会の委員構成・活動計画（案）

前川委員より，資料 3-4 を用いて委員構成・活動計画（案）が説明された．主な内容は以下の通り．

- ・ 前川宏一委員長，橋本親典幹事長とする．
- ・ 委託の委員会であり，委託側で自主的に検討を進めてきている．その成果を示方書に使うかどうかは後の議論となるが，その材料を作成する．

以上の委員構成・活動計画（案）について，了承された．

### (4) 複数微細ひび割れ型セメント複合材料の指針作成小委員会の委員構成・活動計画（案）

六郷委員より，まず本材料・工法の概要が説明されたあと，資料 3-5 を用いて委員構成・活動計画（案）が説明された．主な内容は以下の通り．

- ・ 六郷恵哲委員長，横田 弘幹事長とする．さらに参画されたい方は，受け入れたい．
- ・ 既に 334 複数微細ひび割れ型繊維補強モルタルの評価と利用研究小委員会で検討を重ねていることもあり，活動期間は 1 年間とする．
- ・ 英語版も作成し，RILEM などに反映させたい．ハワイで 334 委員会の英語版を議論した．こちらでも早々に英語版を出し，海外のアドバイザーとできる限り議論を重ねたい．

以上の委員構成・活動計画（案）について，了承された．

### (5) 土木材料実験指導書

橋本委員より，資料 3-6 を用いて，土木材料実験指導書編集小委員会 委員構成（案）が説明された．梅原秀哲委員長，橋本親典委員幹事とする委員構成について，了承された．

### (6) 耐震設計研究小委員会の 2 期目申請

中村幹事より，資料 3-7 を用いて，島委員の代理で 329 耐震設計研究小委員会の 2 期目申請が説明され，了承された．

#### 4. 報告事項

##### (1) 海外セミナーの計画について

横田幹事長より、資料 3-8 用いて、堺委員の代理で VIFCEA-JSCE ジョイントセミナーの開催について報告された。また、セミナーの翌日、211 重点研究課題「コンクリート標準示方書のアジア地域への展開戦略に関する研究」対応 PT と共同で、ワークショップを開催する予定である。

これに対し、ベトナムの石炭灰は品質が悪い。その石炭灰を RCD に使いたいと考えているようだ。わが国としては、これに対し、経験を教えるのは結構だが、データの誤用を避けるため、当該材料に関するデータは持っていない、というスタンスを明確にしてほしいとの意見が出された。

関連し、横田幹事長より、韓国土木学会（KSCE）と JSCE により、先方の土木学会全国大会（10 月 21 日）のときに、ジョイントセミナーを開催するよう、堺委員長と相談のうえ進めていることが紹介された。3～4 名ずつ、コンクリート委員会の活動、耐久性関連、大規模プロジェクトの紹介などをテーマとしてセミナーを行う予定である。

##### (2) 垂井高架橋損傷対策特別委員会の中間報告

丸山委員長より、資料 3-9 を用いて、垂井高架橋損傷対策特別委員会の進捗状況が報告された。主な内容は以下の通り。

- ・ 資料 3-9 は中間報告書の抜粋であり、目次、序文、はじめに、損傷対策の検討方針・委員会構成、まとめからなる。検討結果は今回の資料には含めていない。なお、資料 3-9 の目次中で、3.2.3(2) で「と概略コスト」を削除。
- ・ 月に 1 回の委員会、その間 WG を開催した。8 月末に記者発表して中間報告を出すとしたが、選挙があるので先に延ばし、9 月 12 日出す予定。
- ・ メンバーには国土交通省の担当者も加わっている。前川委員、田辺委員らを中心に解析も実施した。
- ・ 「序」では、どういう事故であったか？を述べた。「3. 損傷対策の検討結果」では、検討した内容と、どのレベルまでを OK とするのか・どこまで直すのか・どういうものであったら良かったのか・何が足りなかったのか等について記述する予定。また、「4. おわりに」では、なぜこのようなことが起こったかについてまとめる予定。
- ・ 最終的には、近畿地方整備局の判断がなされることになる。国交省が早く対策を決めたいと考えているため、早く取りまとめるよう進めている。
- ・ 平成 18 年 3 月までの委員会であり、終了時に最終報告書を出版する予定である。検討の成果が示方書にも生かせることがあればそのようにすることも考えている。

##### (3) コンクリート構造物の環境性能照査指針（試案）について

丸山委員長より、堺委員の代理でコンクリート構造物の環境性能照査指針（試案）が報告された。幹事会で検討した結果、示方書ではなく、試案という位置付けで、コンクリートライブラリーとして出版することとした。これにより、広く意見を収集したいと考えている。

##### (4) EPMA 法によるコンクリート中の面分析方法（案）意見への対応

横田幹事長より、資料 3-10-1 および 3-10-2 を用いて、武若委員の代理で EPMA 法によるコンクリ

ート中の面分析方法（案）意見への対応が報告された。主な内容は以下の通り。

- ・ 意見照会したところ、特段の意見はなかった。WG 内での検討により、15 番のみ、修正を追加した。今回の案により、基準（案）として承認していただきたい。
- ・ 公表の仕方は、基準関連小委員会で検討していただきたいが、論文集や HP での掲載を考えている。周知のため、概要ではなく、試験方法全てを含む本編を、論文集（委員会報告の範疇）に掲載する予定である。加えて、微量成分関連の試験方法案とあわせて、平成 18 年 4 月に講習会を開催することを考えており、その際、この規準（案）と静定資料などを含むコンクリート技術シリーズを発刊することを考えている。
- ・ 本基準（案）については、ISO TC-202（マイクロビームアナリシス）が SC-2（EPMA）が大きな関心を示している。その対応は基準関連小委員会に一任したい。

以上について、了承された。

#### (5) コンクリート標準示方書〔施工編〕英訳版の作業状況

横田幹事長より、武若委員の代理で施工編英訳版の作業状況が報告された。主な内容は以下の通り。

- ・ 施工編英訳原稿の査読を、常任委員に依頼した。その結果に対し、5 名の最終原稿作成担当者で各章の最終の修正を行っており、9 月末には印刷に回したいと考えている。
- ・ 修正意見にはできるだけ対応しているが、全体の整合性等から、必ずしも修正していない場合もある。他編との整合性は可能な限りとるようにする。
- ・ 以上より、今後は 5 名の担当委員に一任いただき、再度常任委員会を通さず、事後承認のかたちで、出版の手配をすることを了承いただきたい。

以上について、了承された。

#### (6) 第 3 種小委員会の委員の追加・交代

下村幹事より、資料 3-11-1～3-11-3 を用いて、325 および 331 委員会の委員の追加・交代が報告された。また、335 委員会は新しく発足する委員会であり、公募の結果が報告された。

なお、第 3 種小委員会の委員の公募結果、追加・交代は、報告事項であることが確認された。

#### (7) ISO 対応特別委員会からの 17 年度下期助成申請について

服部幹事より、ISO 対応特別委員会（長瀧委員長）からの平成 17 年度下期助成申請について説明があった。ISO 関連で助成を希望する委員会等は 9 月 14 日までに服部幹事まで申請書を提出されたい。

#### (8) 平成 17 年度コンクリート委員会 会計状況

横田幹事長より、資料 3-12 を用いて、平成 17 年度コンクリート委員会 一般会計の会計状況が報告された。2 件の委託委員会による収入増があった。地震等の災害がなければ、予備費を使える。

#### (9) ペーパーレス化への協力依頼

横田幹事長より、資料 3-13 を用いて、土木学会事務局長から出されたペーパーレス化への協力依頼が報告された。コピー費が多大となっている。難しいケースもあると思われるが、協力してほしい。多い場合は実費を負担させられることもある。

(10) 平成 18 年度 出版企画書について

三島幹事より、平成 18 年度 出版企画書について説明された。主な内容は以下の通り。

- ・ 委員会報告を来年度コンクリートライブラリーで出す予定がある委員会について調査を実施した。
- ・ 9 月 30 日が出版企画書の締切りであるので、それまでに出版企画書を提出してほしい。

これに対し、以下の委員会から回答があった。

- ・ 280 複数微細ひび割れ型繊維補強セメント複合材料指針作成小委員会：コンクリートライブラリーで出す予定。
- ・ 281 コンクリートの施工性能評価小委員会：コンクリートライブラリーで出す予定ではない。示方書の下書きとしてのものをまとめる予定。
- ・ 283 鉄筋継手指針改定小委員会：コンクリートライブラリーで出す予定だが、まだ先になるので出版企画書は提出しない。

《英訳》

- ・ 111 エポキシ樹脂塗装鉄筋を用いる鉄筋コンクリート設計施工指針改訂小委員会（終了）：ISO 助成済み。一方、出版企画書を三島幹事に提出されたい。
- ・ 112 コンクリート標準示方書英訳小委員会（コンクリート標準示方書に基づく性能照査例「港湾構造物の設計例」）：同上。
- ・ 284 吹付けコンクリート研究小委員会（終了）：ISO 助成申請と出版企画書の両方を、それぞれ服部幹事、三島幹事に提出されたい。
- ・ 285 超高強度繊維補強コンクリート研究小委員会（終了）：同上。
- ・ 286 表面保護工法研究小委員会（終了）（表面含浸材等の試験方法）：ISO 助成済み。一方、出版企画書を三島幹事に提出されたい。

(11) 各種講習会の開催案内【別紙資料】（下村幹事）

下村幹事より、資料 3-14-1～3-14-3 を用いて、以下の 3 件のコンクリート委員会関連の講習会の開催案内がなされた。

- ・ コンクリート構造物の非線形解析技術と耐震設計に関する講習会（2005 年 9 月 20 日東京）
- ・ アルカリ骨材反応対策小委員会報告書に関する講習会（2005 年 9 月 29 日東京：大阪開催は済）
- ・ コンクリート構造物の環境側面に関する講習会（2005 年 11 月 1 日東京）

(12) 第 49 回 日本学会会議材料研究連合講演会の案内

坂井委員より、資料 3-15-1 を用いて、開催案内がなされた。

- ・ 土木学会と日本材料学会が担当世話学会となっている。
- ・ 魚本委員が特別講演（題目：社会基盤の安全とコンクリート）、宮川委員がパネル討論会パネラー（テーマ：材料研究の社会貢献と連携）。
- ・ 森川先生（神戸大）、長岡氏（住友大阪セメント）がオーガナイザーとなり、セッション 8「21 世紀の建設材料とその適用」を設置。セッション中、辻委員が基調講演（題目：放射性廃棄物埋設へのコンクリートの適用）。



### (13) その他

宮川委員より、資料 3-15-2～3-15-3 を用いて、以下の 2 件の関連行事の開催案内がなされた。

- ・ 第 28 回材料講習会 コンクリート構造物の内部変状と補修・補強技術(2005 年 10 月 27 日京都)
  - ・ 第 5 回コンクリート構造物の補修,補強,アップグレードシンポジウム(2005 年 10 月 28 日京都)
- 下村幹事より、資料 3-15-4 を用いて、以下の国際会議の開催案内がなされた。
- ・ Three-Day CANMET/ACI International Symposium on Sustainable Development of Cement, Concrete, and Concrete Structures (2005 年 10 月 5 日～7 日トロント,カナダ)

加えて、以下の国際会議の開催報告が紹介された。

- ・ The 4th Kumamoto International Workshop on Fracture, Acoustic Emission and NDE in Concrete (2005 年 7 月 14 日～15 日熊本市)

続いて、魚本委員より、資料 3-15-6 を用いて、以下の国際会議の開催案内がなされた。

- ・ FRPRCS8 (2007 年 7 月 16 日～18 日パトラス,ギリシャ)

### 5. その他

- ・ 魚本委員より,JSCE,CSCE が主催の ConMat '05 の開催報告があった。54 カ国が参加し,協力・参加に対する謝意が述べられた。また,今回は 2008 年を目安に日本で開催する予定であり,協力が依頼された。なお,建築関係の参加をどうするかについて, JCI と相談している。
- ・ 宮川委員より,資料 3-14-2 に関連し,アルカリ骨材反応対策小委員会報告書に関する講習会の大阪開催に対する謝意が述べられた。また東京開催が控えており,サーキュレーションが依頼された。

### 6. 次回開催日

次回,第 4 回 コンクリート常任委員会は,2005 年 11 月 7 日(月) 14:00～17:00 に土木学会において開催する。

以上

委員会の終了後,18:30 よりスクワール麹町 5 階「芙蓉」にて懇親会を開催した。